JR 片町線(学研都市線)

●路線概要

京橋駅と木津駅を結ぶ路線で、1989 年までに全線電化した。特に 1989 年に電化された長尾～木津間は、一部区間の経路変化などもあり、著しい変化を見せている。最初に電化された四条畷～片町(現存せず　後述)間は関西最初の電化区間で、当時国鉄では関西初の自動改札導入線区でもあった。また JR 西日本になっても最初に新車が導入されるなどアーバンネットワークの中では、近代的な路線なのではないかと思う。1997 年に片町線と福知山線の連絡を目的として開通した JR 東西線が開業すると同時に、路線名にもなっていた片町駅は廃止され、「学研都市線」という愛称が付けられた。現在地元民には「学研都市線」のほうが有名であり、「片町線」の方は、あまり有名ではないらしい。福知山線と共通運用を組んでおり、昼間は「普通」と「快速」がそれぞれ 15 分間隔である。おおさか東線が開通した 2008 年以後は、おおさか東線を介して大和路線奈良に直通する「直通快速」も運行されており、2011 年 3 月ダイヤ改正までは 223 系が使用されていたが、北新地駅のホームドア装備により 207 系　321 系に置き換えられた。「普通」「快速」共に通勤型で運行されるという関西では珍しいケースでもある。(関東では一般的)前述の通り 2011 年に近郊型である 223 系も入線していた。

●使用車両

前述したとおり、新型車両が最初の方に導入されるケースが多い

▲207 系　同系が導入されて、一番最初に導入された線区でもある

JR 西日本が最初に設計　製造した車両で、通勤型では初の 120Km 対応車両である。JR 東西線の開業と同時に、片町線の 103 系を置き換えるために登場した車両でもある。現在片町線　東海道本線　山陽本線　福知山線　JR 東西線で運用されており、アーバンネットワークの主力車両でもある

▲321 系　JR 西日本の最新型の通勤型車両でもある

▲233 系　大阪開業の 2008 年から 2011 まで「直通快速」で使用された　北新地駅のホームドア設置に伴い、207 系 321 系にバトンタッチされた

●沿線の変貌

前述したとおり、最後に電化された長尾～木津間は、電化後特にものすごく変貌した路線で私もこの区間を 1 ～2 両のディーゼルカーがのこのこと走っていたとは予想もつかなかった。当時はのどかなローカル路線で長尾付近には山もあったらしい。電化後にくり開き、さらに経路変更も行ったため山の跡地は高級住宅街になっており当時の面影は全くと言っても良いほど残っていない。

●最後に

片町線に乗り、走行距離は比較的短かったが、田舎から都市部までいろいろな風景なところを走っているのだと思った。おおさか東線が延伸する計画もあり、片町線は奈良県と大阪中心部を結ぶ重要な役割を為すことだろう。

参考文献

Wikipedia

鉄道ファン